

第 7 回報告書

2025 年 6 月

伊藤絵美



(卒業式の日にキャンパスに置かれていた Berkeley の愛称・Cal マーク入りの車)

1. はじめに

カリフォルニア大学バークレー校で Chemistry の PhD をしている伊藤絵美です。5 年のプログラムは長いと思って入学したはずが、3 年目がもう半分以上過ぎてしまったのが信じられません。入学したときから情勢も色々と変わり、研究費があることのありがたみを以前より深く実感しました。化学の実験は色々とお金がかかるものが多いので、なんとか卒業にこぎつけられるように今ある研究費に感謝して研究を頑張りたいと思っています。

2. 生活

2.1. 米国大学院学生会の活動

米国大学院学生会の代表として 2024 年冬の海外大学院留学説明会を行いました。現在も夏の留学説明会の準備を進めています。情勢的にアメリカへの留学が少し難しくなっていると思います。ただ、米国大学院学生会は日本から海外大学院一般への留学を目指す方々への情報提供を目的とした団体です。米国留学に限って活動しているわけではなく、ヨーロッパやカナダへの留学に関する情報も発信しています。少し苦しい状況かもしれませんが、現在留学を目指している方々の役に立てれば幸いです。

2.2. 帰国せずに日本気分を味わう



(左：ついにパークレーにくら寿司が、右：友人宅で焼肉)

授業や qual を受けていた頃は学期終わりにご褒美に日本に帰るといった形で半年に 1 回の頻度で短期日程でも無理やり帰国していました。ただ私(化学の実験家)の研究はリモートでははかどらないので、PhD 生活の中心が研究になった今、帰国するのは年に 1 回にした方がいいかなと思うようになってきました。1 年帰らなくてもホームシックに耐えられるようになったのは、パークレー周辺に詳しくなり、日本気分を味わえる場所がわかってきたからだとも思います。日本食スーパー、日本食レストラン、日本のカラオケ等に行くことで今年の夏は帰国せずに乗り切りたいと思います。

3. 研究

ほかのラボの研究を少し手伝っていたのですが、その内容が無事 Angew. Chem. Int. Ed. に掲載されました(<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/anie.202422974>)。f ブロック金属元素を割と幅広く使って研究しているのですが、論文化されたプロジェクトがウランのものばかりでウランの研究者みたいになっている気がします。自分の研究テーマに関しては、引き続き、単分子磁石の新たな設計指針を見出すための研究を続けています。長らく試行錯誤を繰り返していた標的分子の合成経路開発の段階から物性評価の段階に少しずつ移行できつつあるように思います。物性評価から最後論文をまとめるまでの段階では、磁性に関する知識がより一層求められるので、これまで以上に物理の勉強に力を入れています。

4. 最後に

PhD 生活も後半が始まり、卒業後の進路を真面目に考えるようになってきました。夏の交流会で奨学金の先輩方のお話を聞けるのを楽しみにしています。いつも交流会の開催等ご支援くださりありがとうございます。ただ卒業後のことを考えるだけでなく、まずは卒業できるように博士号取得に向けて精進していきたいです。